

2022年度「光華EDUALプログラム（リテラシーレベル）」

自己点検・評価報告書

2023年 3月 16日

京都光華女子大学 自己点検評価委員会

1. 点検・評価の実施と結果

本学「光華EDUALプログラム（リテラシーレベル）」は、2021年度の実施内容を文部科学省に申請し、2022年度に「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定を受けた。2022年度の実施状況およびプログラムの達成・進捗状況の点検・評価を行ない、リテラシーレベルのデータサイエンス教育を適切に実施していることを確認した。詳細は以下のとおりである。

2. 数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）を構成する科目と、文部科学省の5つの審査項目との対応

(1) プログラムを構成する科目

本プログラムは、4つの必修科目と3つの選択科目により構成される。プログラム必修4科目のうち「情報リテラシー応用」以外は卒業必修科目である。

「情報リテラシー応用」が本プログラムの核となる科目であり、これからの社会におけるデータ・AI利活用の必要性を概観し、データと情報を適切に扱うための基礎知識とスキルを学ぶ。また、その他の必修科目「京都光華の学び」「アカデミックスキル入門」「アカデミックライティング」において、AIの歴史や概要、データ・AI利活用の最新動向や留意事項、情報モラル等を、それぞれの科目の目的に沿った形で扱う。「アカデミックライティング」では、AI社会に関するテーマを各自で設定しレポートを作成した。

| プログラムでの位置付け | 科目名 | 配当年次／開講期間 | 卒業要件 |
|-------------|--------------|-----------|------|
| 必修 | 情報リテラシー応用 | 1年／後期 | 選択 |
| | 京都光華の学び | 1年／前期 | 必修 |
| | アカデミックスキル入門 | 1年／前期 | 必修 |
| | アカデミックライティング | 1年／後期 | 必修 |
| 選択 | 情報リテラシー基礎 | 1年／前期 | 選択 |
| | くらしのなかの統計学 | 1・2年／後期 | 選択 |
| | プログラミング入門 | 2・3年／後期 | 選択 |

(2) 文部科学省の5つの審査項目との対応

本プログラムは、次のようにリテラシーレベルの内容・要素を扱っている¹。

- ① 「現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄り添っているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む科目

| 科目 | 区分 | 1-1 社会で起きている変化 | 1-6 データ・AI利活用の最新動向 |
|--------------|----|----------------|--------------------|
| 情報リテラシー応用 | 必修 | ○ | ○ |
| 京都光華の学び | 必修 | ○ | ○ |
| アカデミックライティング | 必修 | ○ | ○ |
| 情報リテラシー基礎 | 選択 | ○ | |

- ② 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む科目

| 科目 | 区分 | 1-2 社会で活用されているデータ | 1-3 データ・AIの活用領域 |
|--------------|----|-------------------|-----------------|
| 情報リテラシー応用 | 必修 | ○ | ○ |
| 京都光華の学び | 必修 | | ○ |
| アカデミックライティング | 必修 | ○ | ○ |
| くらしのなかの統計学 | 選択 | ○ | ○ |

- ③ 「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む科目

| 科目 | 区分 | 1-4 データ・AI利活用のための技術 | 1-5 データ・AI利活用の現場 |
|--------------|----|---------------------|------------------|
| 情報リテラシー応用 | 必修 | ○ | ○ |
| 京都光華の学び | 必修 | | ○ |
| アカデミックライティング | 必修 | ○ | ○ |
| くらしのなかの統計学 | 選択 | ○ | ○ |

- ④ 「活用にあたっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む科目

¹ 各項目の詳細は、「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」を参照。http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/pdf/model_literacy.pdf

| 科目 | 区分 | 3-1 データ・AI 利活用における留意事項 | 3-2 データを守る上での留意事項 |
|-------------|----|------------------------|-------------------|
| 情報リテラシー応用 | 必修 | ○ | ○ |
| 京都光華の学び | 必修 | ○ | |
| アカデミックスキル入門 | 必修 | | ○ |
| くらしのなかの統計学 | 選択 | ○ | |
| 情報リテラシー基礎 | 選択 | | ○ |

- ⑤ 「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む科目

| 科目 | 区分 | 2-1 データを読む | 2-2 データを説明する | 2-3 データを扱う |
|-------------|----|------------|--------------|------------|
| 情報リテラシー応用 | 必修 | ○ | ○ | ○ |
| 京都光華の学び | 必修 | ○ | | |
| アカデミックスキル入門 | 必修 | ○ | | |
| くらしのなかの統計学 | 選択 | ○ | ○ | ○ |

- ⑥ 「オプション」の内容を含む科目

| 科目 | 区分 | 選択項目 |
|------------|----|---|
| プログラミング入門 | 選択 | 4-2 アルゴリズム基礎、4-3 データ構造とプログラミング基礎 |
| くらしのなかの統計学 | 選択 | 4-1 統計および数理基礎、4-7 データハンドリング、4-8 データ活用実践（教師あり学習）、4-9 データ活用実践（教師なし学習） |

3. プログラムの履修・修得状況

2021年度入学生は2021年度に93%、2022年度までに94%がリテラシーレベルを修了した。2022年度入学生の2022年度末での修了者は78%（303名）にとどまった（2021年度入学生389名、2022年度入学生406名）。

4. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

2022年度は、1年次でのリテラシーレベル修了率が78%と前年度93%と比べて低下した。その主な原因は、「情報リテラシー応用」の履修率低下および単位取得率の低下である。1年次での履修率は98%（2021年度）から93%（2022年度）に、単位取得率は91%（2021年度）から83%（2022年度）に低下した。2023年度入学生からは「情報リテラシー応用」を「データサイエンス入門」に変更し、全学必修となる。したがって、今後は、より一層の学習サポート体制を整えるとともに、2年次以降での再履修がしやすい環境を整える必要がある。

以上